

暁映ゆる

一 卷 頭 挨 捶 一



支部長 小野誠治 (学 28 期)

寒さが厳しくなっていますが、仁泉会広島県支部の皆様、いかがおすごしでしょうか。支部長の小野です。今年の夏、広島では集中豪雨で多くの犠牲者を出しました。犠牲となつた方の御冥福をお祈りします。幸いなことに仁泉会広島県支部の会員には被害を受けた先生はいらっしゃらないようで、安堵してい

ます。

支部会としては、6月14日に支部総会をおこないました。仁泉会理事長の河野公一先生をお招きして、講演をして頂きました。化学熱傷という普段はあまり聞くことのない、でも、有意義な話をきかせてもらいました。そのあと懇親会で、楽しい時間を過ごしました。今年の総会の出席者は26名でした。来年は、6月13日土曜日に、飯島先生に講演していただく予定です。また、6月8日にゴルフコンペを行っています。ゴルフコンペの参加者は8名でした。来年は、今年以上の会員の先生方の参加をお願いします。

今年の5月25日に母校歴史資料館3階講義室にて仁泉会総会が開催されました。松野先生と私が出席しました。新入会員は95名で、現在の会員は5548名です。総会出席者は73名で今年も出席者が少なくさびしい印象をうけました。来年の総会は広島県支部の先生で時間のある方は是非、出席してください。総会には、福永先生が元気に出席されていました。

理事会は5回開催され、4回出席しました。大阪医科大学仁泉会と台北医科大学同窓会の学術及び友好交換に関する協定が締結されました。今後いろいろな懇親の場がもうけられるものとおもわれます。3月に東京での仁泉会の懇親会が盛大に行われ、関東、東京での支部会活動の再開に向けてうごきはじ

めています。今度は、四国地方で同様の懇親会をしてはどうかという話になっています。8月の理事会では理事の皆様から集中豪雨の被害はどうかと聞かれました。

ことしも広島カープは、クライマックスシリーズに出ましたが、今年はタイガースに 1 点も取れずに敗退しました。残念です。しかし、このシリーズで、めだったのは、新人大瀬良投手の力投でした。シーズンでも 10 勝をしています。今後も活躍して欲しいものです。皆さんはしっていますか。カープの漢字三文字姓の投手はエースとして活躍しているということを。古くからいえば、長谷川、太田垣、安仁屋、外木場、佐々岡、北別府とすべてエースとなっています。大瀬良投手もこの先輩たちと同じ道をたどってもらいたいものです。来年は緒方新監督のもとで、久しぶりの優勝をみたいものです。みんなで応援しましょう。

一平成 26 年 仁泉会広島県支部総会報告一



幹事 清水 泉(学 28 期)

平成 26 年 6 月 14 日(土)18 時 30 分より、ANA クラウンプラザホテル広島において、平成 26 年仁泉会広島県支部総会を行いました。

出席者(敬称略)は、大崎洲(学 12 期)、平田忠範(学 19 期)、佐々木尚(学 21 期)、藤井俊宏(学 21 期)、大庭容子(学 22 期)、豊田秀三(学 22 期)、山下達博(学 22 期)、灰塚隆敏(学 23 期)、松野堅(学 23 期)、飯島崇史(学 25 期)、小野誠治(学 28 期)、清水泉(学 28 期)、岡東周一郎(学 31 期)、伊達幸生(学 32 期)、中崎育明(学 34 期)、貞岡達也(学 35 期)、湯川修(学 36 期)、平賀正文(学 38 期)、田村健司(学 42 期)、長尾光史(学 44 期)、芳谷伸洋(学 45 期)、谷充理(学 50 期)、久保田益亘(学 54 期)の支部会員 23 名でした。なお、田村先生は山口県光市からの参加です。

平賀幹事の司会で支部総会が始まり、まず、この 1 年間に物故会員になられた高 20 期の藤高道也先生、高 15 期の山本孝司先生、学 4 期の中坪本治先生に黙祷の後、小野支部長(仁泉会理事)より開会の挨拶、岡東幹事より会計報告、清水より会計が適正に処理されているとの監査報告があり、総会で承認されました。

総会後の特別講演では、小野支部長に座長を御願いし、仁泉会理事長の河野公一先生(学 21 期、大阪医科大学衛生学、公衆衛生学教室名誉教授、公益社団法人関西労働衛生技術センター所長)に「化学熱傷は恐ろしい」という演題で御講演いただきました。

御講演では(1) 金属表面処理の作業中に発生したフッ化水素の吸入暴露によって発症した化学性肺炎を 5% グルコン酸カルシウム溶液のネブライザー吸入と間欠的陽圧呼吸によって救命した症例(2) 配管の洗浄作業中に体表面積の 5% (顔面) にフッ化水素酸によるⅢ度化学熱傷を受け、直後に死亡した症例(3) 化学合成実験中に発生したパフルオロアクリルクロライドの吸入暴露後に化学性肺炎を発症し、その後重症の気胸によって死亡に至った症例を紹介され、労働衛生保護具の使用、作業管理、作業環境管理、

暴露後の応急処置の重要性について解説されました。非常に衝撃的な内容で、化学熱傷の恐ろしさを痛感し、支部会員の認識を新たにするような御講演でした。

講演会終了後、その場で集合写真を撮り、伊達幸生幹事の司会で懇親会を行いましたが、まず、会員慶事としまして、古希の山下達博先生(学 22 期)、八木徹先生(学 20 期)、津村滋先生(学 21 期)が紹介されました。慣例に従い、3人の先生に記念品が贈呈されます。いつまでも御元気で、活躍されること

を願っております。宴席中、中崎幹事より 6 月 8 日に東広島市の東映 C.C. で行われましたゴルフコンペの成績発表をしていただき、それぞれ表彰しました。河野公一先生は大学と仁泉会の現状を説明され、さらに出席支部会員の自己紹介と近況報告などで大変盛り上がりました。

最後に、閉会の辞を灰塚前支部長に御願いし、恒例となりました学歌を全員で肩を組み齊唱し、盛況のうちに、21 時 35 分過ぎに終了しました。

平成 26 年大阪医科大学仁泉会広島県支部総会・懇親会出席者



前列左より（敬称略）

山下達博、藤井俊宏、佐々木尚、河野公一、小野誠治、大崎洲、平田忠範、灰塚隆敏
中段左より

田村健司、豊田秀三、大庭容子、松野堅、貞岡達也、清水泉、飯島崇史、谷充理、久保田益亘
後段左より

伊達 幸生、中崎 育明、平賀正文、湯川 修、長尾 光史、岡東 周一郎、芳谷 伸洋



—仁泉会広島支部ゴルフの会—



学 32 期 伊達幸生

毎年、このコンペには参加させていただいているが、ゴルフ幹事の学 34 期 中崎育明先生には、いつも計画から集計まで、すべてにおいてお世話になり、誠に御礼申し上げます。

本年度の仁泉会広島県支部のゴルフコンペは、昨年と同様、広島東映カントリークラブで、6 月 8 日に行われました。昨年は大変な雨でしたが、今年度は、天気に恵まれ、最高気温 28℃ で、結構暑い中でのプレーでした。今回の参加者は 8 名、2 組で行われ、楽しい時間を過ごさせていただきました。中尾先生、津田先生が今回、初参加? してくれました。最終的な成績はダブルペリアのおかげで、なんとかギリギリ、私が優勝させていただきましたが、グロスでは津田先生に惜敗でした。彼は野球部だったことを聞き、納得でした。元野球部の先生は、私の知っている限り、皆飛ばし屋で、ゴルフの上手な方が多い印象です。野球のフォームとゴルフのフォームは共通部分が多いのかなと思います。 来

年こそは負けないよう、頑張りたいと思っています。

来年は、少し早い時期、4 ~ 5 月に開催される予定と聞きました。良い季節だと思いますので、来年も楽しみにしております。他の先生方もドシドシ参加されるよう、よろしくお願いいたします。

最後に、いつも同コンペに参加され、常連でありました学 4 期 中坪本治先生に、謹んで哀悼の意を表したいと思います。合掌。

—平成 26 年仁泉会広島県支部 ゴルフの会成績—

			OUT	IN	GROSS	HC	NET
優勝	伊達	幸生	43	43	86	9.7	76.3
2 位	津田	幹夫	42	43	85	8.6	76.4
3 位	長尾	光史	52	55	107	27.0	80.0
4 位	大庭	容子	48	50	98	17.3	80.7
5 位	中崎	育明	48	48	96	15.1	80.9
6 位	大崎	洲	49	53	102	20.5	80.5
7 位	灰塚	隆敏	57	53	110	22.7	87.3
8 位	谷	充理	77	81	158	36.0	122.0

— 会員消息短信 —

仁泉会広島県支部総会出欠葉書に近況を掲載不可の会員以外の会員の近況報告の一部を掲載します。(平賀)

高 19 期 横山 滋

今年 3 月で満 90 才を過ぎました。リハビリのおかげで、杖に頼らないで歩けるようになりました。相変わらず音楽会や美術館をたのしみにのんびりと過ごしています。

学 2 期 谷川 篤朗

月 4 回位健診の手伝いをしています。

学 3 期 武田 啓志

診療は毎日続けています。御盛会をお祈り致します。

学 9 期 前田 中

年齢相応の診療の毎日です。皆様に宜しく御盛会を祈念致します。

学 10 期 坂口 憲吉

元気を出してボツボツやってます。

学 12 期 大崎 洲

現在も元気にはしています。又未だ老健施設に週 4 日勤務しています。

学 18 期 横殿 透

体力低下にて体調不良です。御盛会を祈つております。

学 19 期 平田 忠範

同窓の老いた者も若い者も多く集い、有意義な会になるよう期待しています。

学 20 期 八木 徹

ボツボツしながら、元気にやっています。

学 21 期 藤井 俊宏

ご無沙汰しております。同期の河野君が来られるとのことで、出席せねばなりません。今回は宜しくお願ひいたします。

学 22 期 木村 邦夫

何とか元気でやっています。

学 23 期 灰塚 隆敏

今年は卒後 40 年。65 才前期高齢者となりました。何と今更と思われるかも知れませんが、生活習慣病とまじめに戦っています。しぶとく生き残るつもりです。

学 27 期 松田 道雄

昨年有床→無床にし、楽できる予定でしたが、ほぼ週一のペースで、先輩の病院でオペ

しております。

学 28 期 稲垣 和郎

元気に診療しております。

学 33 期 伊達 健二郎

広島赤十字・原爆病院産婦人科勤務 2 年目です。

学 35 期 貞岡 達也

月 100km を目標に走っています。チャンスがあれば、ハーフ、フルマラソンに参加できればと思っています。

学 38 期 平賀 正文

広島市の南区で内科診療所をしています。所属している最小単位規模の地域医師会、広島市南区医師会が一般社団法人になり、その理事になることになりました。

学 43 期 須山 嘉雄

来年皆様とお会いできることを楽しみにしています。梶川病院は、一時期脳神経外科医 2 名体制でしたが、東医歯大と岡大から 1 名ずつ来られ現在 4 名体制となりました。少しずつ以前の状態に戻りつつあります。

— 会員からのお便り —

古稀を迎えた、八木 徹先生、津村 滋先生、山下 達博先生よりお便りをいただきましたので、ご紹介いたします。

また、灰塚先生よりお便りをいただきましたので紹介いたします。(平賀)

「古稀を迎えて」

八木 徹（学 20 期）

今度は、古稀のお祝いを頂き誠にありがとうございます。

私も古稀を迎える年になりましたが、今まで、大きな病気もせずにやって来られたのは、運が良かったのかもしれません。又、ストレスを溜めないようにしているのも、良かったのかもしれません。

今後は残された余命を、のんびりと、楽しく生きて行こうと思っています。

仁泉会広島支部の先生方には、お祝いを頂き、お札を申し上げますと共に、ご自愛なさるままでお元気でいつまでもご活躍されますようにお祈りしております。

「古稀にあたり」

津村 滋（学 21 期）

あつという間に古稀となりました。向学の志を抱いて入学し、勉学にスポーツに恋愛？にと、充実した日々を過ごした大阪での生活が夢のようによみがえってきます。

振り返ってみると、大学で博士号を頂戴して、ろくにお礼奉公もしないまま 36 歳の時に耳鼻科の医局を辞し帰広。マツダ病院耳鼻科に 3 年間勤務後、広島市北部の可部地区に開業して 30 年を迎えます。

2013 年 7 月にゴルフ場で、熱中症で倒れて右目に軽い後遺症が残りましたが秋頃に復帰しました。診察時間を減少したので患者さんと従業員の数は減りましたが、仕事をしないと呆けたり鬱病になりそうなのでリハビリを兼ねて仕事をしています。私の診察を必要とする患者さんがある限り、またわが愛する広島カープが優勝するまではくたばるわけにはいきません。

杜甫が「人生七十古来稀なり」と詠んだ時代からは想像ができないような長寿社会となりましたが、これから喜寿・傘寿・米寿・卒寿・白寿・百寿と祝いが出来るよう頑張ろうと思います。

最後に、これまで比較的順調に人生を送ってこられたのは、両親・家族・恩師・友人そして関係各位の支えがあったればこそと、深く感謝申し上げる次第です。

「古稀」

山下 達博（学 22 期）

このたびは、仁泉会広島県支部よりお祝いの品をいただきありがとうございます。

いつのまにか歳を重ね、人生の余すところも見え始めたこの頃となり、過度な事はせず、心穏やかにと思う毎日です。殆どの役職は若い人達に委譲して、自分の健康と趣味に心を遊ばせ、週 2 回のエアロビクス、週 1 回のテニス、月 1 回～ 2 回の魚釣りなど楽しくしている近況と心境を書かせていただきました。

仁泉会と皆様の益々の御活躍を祈念してお礼とさせていただきます。

「お役目」

灰塚 隆敏（学 23 期）

今年 2 月、65 歳になった。気分は若いつもりでも高齢者（前期）の烙印を押された。60 歳の時は映画館の入場料が 1000 円になって、びっくりしたが、有り難くもあった。

「65 歳からインフルエンザ接種料金が 1000 円ですよ」と言われても、当方には何のメリットもない。

「同級生の誰々が死んだ」のたよりが多くなった。自分の老いを身体的、精神的ともに実感させられている。

家内との会話が「あれが・・」「あれを・・」で始まり、結局、何を話そうとしたのか分からぬまま終わることが多い。それでも何となく通じるのは 40 年間の同穴のせいか？

現地で内科医院を継承して 30 年。高齢化率は市内で一番。以前の賑わいは影を潜め、建物は次々と撤去され、ペんぺん草の生えたとても静かな町になった。

こうしたうらぶれ感が自分の人生と重なり、ますます気を重くさせる。自分のことは棚に上げて、広島市政が悪いと人のせいにする。

しかし、これが人生だと受け入れるしかない。お役御免となる日が来たら、山頭火のように、日本中を徘徊するか、はたまた、吉田類のように彼方此方で飲み歩く日々を送りたいものである。

一 業 務 日 誌 一

平成 26 年 4 月 24 日 (木)：第 1 回幹事会（小野誠治、平田忠範、灰塚隆敏、松野堅、岡東周一郎、伊達幸生、中崎育明、貞岡達也、平賀正文、長尾光史、芳谷伸洋）を「シサール」（タカタビル 4 階）で開催した。理事会報告、「暁映ゆる 22 号」発行経過報告、総会を 6 月 14 日土曜日に ANA クラウンプラザホテルで、仁泉会理事長河野公一先生をお招きして開催することを決定した。ゴルフについて 6 月 8 日に東映ゴルフ倶楽部で行うことを決定した。

平成 26 年 5 月 1 日 (木)：「暁映ゆる」22 号を発送した。

平成 25 年 6 月 8 日 (日)：平成 25 年仁泉会広島県支部ゴルフコンペを東映ゴルフ倶楽部で開催した。

平成 25 年 6 月 14 日 (土)：平成 25 年度仁泉会広島県支部総会並びに懇親会を、一般社団法人 大阪医科大学仁泉会理事長、大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室名誉教授 河野公一先生（学 21 期）をお迎えして、広島 ANA クラウンプラザホテル 4 階カメリアにて開催した。

総会では、物故会員への黙祷、支部長からの報告、会計・監査報告を平賀の司会で行った。続いて、「化学熱傷は恐ろしい」という演題で河野先生が御講演された。続いて伊達先生司会で懇親会を開催した。会員慶事紹介、ゴルフコンペ成績発表と表彰、出席会員の自己紹介と近況報告があった。最後に参加者全員で学歌を斉唱した。出席者 24 名であった。

平成 26 年 7 月 24 日 (木)：第 2 回幹事会（小野誠治、平田忠範、灰塚隆敏、松野 堅、清水 泉、岡東周一郎、伊達幸生、貞岡達也、平賀正文、芳谷伸洋、谷 充理）を「シサー ル」（タカタビル 4 階）で開いた。仁泉会理

事会報告、総会記、参加者集合写真を仁泉会本部へ送信したことを報告し、「暁映ゆる」23 号の件について協議した。

平成 26 年 10 月 30 日 (木)：第 3 回幹事会（小野誠治、灰塚隆敏、松野堅、清水 泉、岡東周一郎、伊達幸生、中崎育明、貞岡達也、平賀正文、長尾光史、谷 充理）を「シサー ル」（タカタビル 4 階）で開催した。仁泉会理事会報告、「暁映ゆる」第 23 号の作成報告、来年の広島県支部総会開催につき協議した。

平成 26 年 11 月 21 日 (金)：「暁映ゆる」編集委員内で原稿を検討した。

平成 26 年 12 月 1 日 (月)：「暁映ゆる」23 号印刷発送した。（平賀）

大阪医科大学仁泉会広島県支部幹事

大阪医科大学
支部長 仁泉会理事

小野誠治（学 28 期）

顧問 平田忠範（学 19 期）

幹事 灰塚隆敏（学 23 期）

幹事 松野 堅（学 23 期）

幹事 清水 泉（学 28 期）

会計 岡東周一郎（学 31 期）

幹事 伊達幸生（学 32 期）

幹事 中崎育明（学 34 期）

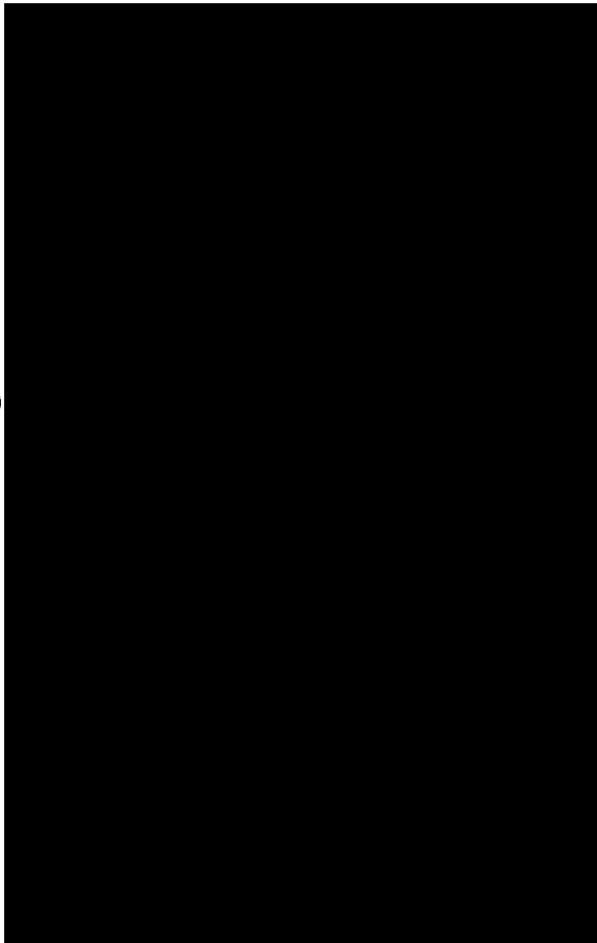
幹事 貞岡達也（学 35 期）

総務 平賀正文（学 38 期）

幹事 長尾光史（学 44 期）

幹事 芳谷伸洋（学 45 期）

幹事 谷 充理（学 50 期）



大阪医科大学仁泉会広島県支部平成 25 年度会計報告

(自平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

収 入	支 出	残 高
前年度繰越金 337, 509		337, 509
年会費	総会費用 (平成 25 年 6 月 22 日、	
勤務医会費 (42 名)	ANA クラウンプラザホテル	
210, 000	宴会費 296, 525	
開業医会費 (12 名)	講師謝礼・交通費 110, 000	
235, 000	ゴルフの会への援助 24, 000	
総会会費 190, 000	会員慶事	
幹事会会費 198, 000	古稀お祝い 9, 240	
銀行利息 44	生花代 31, 500	
	香典 10, 000	
	幹事会費用 231, 000	
	通信・事務費用 160	
	銀行手数料 5, 150	
小 計 634, 049	717, 575	△83, 526
総 計 971, 558	717, 575	253, 983

平成 26 年 4 月 1 日

会計担当 岡東 周一郎

会計監査 清水 泉

— 編集後記 —

平成 26 年の「暁映ゆる」23 号を編集できました。

本号は、広島県支部総会がどのようなものか記録する意味で、写真を多くしてみました。少しでも総会の様子が伝わればうれしく思います。

総会、懇親会は円卓で行いました。円卓を囲んで話しやすい状況を作れたと思います。病診連携、診診連携と医療にはこれからも連携が必要です。また、問題が複雑化している現代においては、情報交換の場が多いことは、問題解決のヒントになると思います。同窓生の会なので、直接的な利害関係がなく自由に会話ができる会だと思います。

そして、今年も平成 26 年を振り返ってみます。まず、最初には安佐南区、安佐北区で発生した豪雨災害です。土砂崩れで被災された方々は、未だ重大な問題だと思います。広島県支部会員においては被災されてご苦労されていらっしゃる先生はいらっしゃらない様です。災害は他人ごとではないと感じました。また、医師として災害時の対応も準備しなければならないと感じました。

世界的な話題として私が関心を持ったのは、スコットランド独立の採否を決める投票が行われたことです。結果は独立反対票が過半数を占めて、独立とはなりませんでした。世界の政治経済の変化で、日常生活に影響を及ぼしてしまうほど、グローバル化が起こっています。その一方で、民族、地域そして宗教でのアイデンティティが強く呼ばれるることは、21 世紀の社会現象において興味あるところです。

医学的な話題としては、この原稿を作成しているときには封じ込めが完了していない、エボラウイルス感染爆発です。エボラウイルスは、1995 年に The Hot Spot というノンフィクション本で知り、映画にもなったある意味有名な？ウイルスです。全世界に飛行機で自由に移動できるようになった現在、医師として、知識だけでも知るべき感染症知識が増

え続けていくことでしょう。

それに続いて、日本でクローズアップされた感染症は、デング熱です。デング熱ウイルスについて、日常診療では不要な知識と言わっていましたが、必要な時代になったと思い感慨深いです。感染症法に記載されている感染症について知っておくべき時代になってしまったかと、私はため息をついてしました。

とりとめもなく平成 26 年を振り返ってみました。今号も会員の皆様のおかげで、発行できました。今後とも近況報告などご意見、メッセージなどをいただければ幸いです。

平賀正文（学 38 期）